東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年11月 18

詮索すること

親愛なるムスリの様

詮索するとは、ある事柄の内面、すなわち秘密や欠点などを、あれこれ熱心に調べることです。人々がお互いに、それぞれの秘密や欠点をあらわにしようとすることを詮索すること、と説明することができます。

人間とは、過ちを犯し、欠点があり、さらに罪を犯すものです。誰も天使ではないので、欠点が無い人間などいません。ムスリムの社会においては、兄弟の秘密や欠点をあらわにしなくてもいいことが認められています。ムスリムたちが犯した、誰にも害与えないような罪や過ちを、むやみに調べてはいけないのです。人間は誰しも、自らの過ちや欠点、罪などが非難され、あらわにされることは好きではありません。

ムスリムは、人の欠点、恥などをお互いに詮索してはならない。なぜならムスリムたちがそのような事を詮索するのであれば、アッラーは彼らの恥をこそ追求するであろう。例え彼らが家の中に隠れていてもその恥をさらすであろう。

崇高なるアッラーは、信者たちの間で、どのような悪事であれ、それを追い求める人々に対して、現世と来世において重い懲罰をあたえると忠告しています。

そのことについてアッラーは、クルアーンのなかで次のように述られています。

イスラームにおいては、人の罪や過ち、個人情報など詮索することはけっして許されていません。この点について崇高なるアッラーは、クルアーンのなかで次のように仰せられています。信仰するものよ、邪推を祓え、本当に邪推は時に罪である。無用の詮索をしたり、また互いに陰口してはならない。

イスラームは、社会的な宗教です。その社会に生きるすべての人々が、お互いの権利を尊重し、善意にもとずいた行動をとることを望んでいます。人を悪い状況におとしめるような行いを、けっして望んでいません。人の名誉、潔白、誇りといった価値を自らのものと同じように大切にします。人がそれを耳にしても、けっして好ましく思わないような内密な過ちを、詮索して他の人々の間に広めるようなことはしません。人々を見下すようなことはしません。人を悪人とみなすような企みに、手を貸すようなことは絶対にしないものです。

預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、そのことについて次のように仰せられています。

信仰する者の間に、そうした醜聞が広まることを喜ぶ者は、現世においても来世においても痛ましい懲罰を受けよう。あなたがたは知らないか、アッラーはすべてを知っておられる。

人々の罪、欠点、過ちなどを詮索して、それを広めようとする人間は、社会を意味なく混乱させています。そうした混乱がもたらされる社会は、けっして幸福なものとならないでしょう。だからムスリムは、兄弟姉妹の罪や欠点を口にして広めてはいけないのです。

ムスリムたちには、人間として守られるべき権利、名誉、および徳があります。それらを守ることは、すべてのムスリムたちの義務です。人が内密にしていること詮索してはいけないことは、ムスリムたちが相互にもつ権利です。人間の誉れとは、相手にたいして敬意を表すことであり、相手を侮蔑することではありません。イスラームにおいては、人間の名誉や尊厳を守ることが命じられています。どのような状況においても人を辱めるようなことは固く禁じられています。